

太平洋戦域を担う給油 *Fueling the Pacific*

January 10, 2023

By Amn Jarrett Smith
374th Airlift Wing Public Affairs

西インド太平洋の基地で最も忙しい輸送拠点であり、世界中からの航空機を支援する横田基地には、ほぼ毎日航空機が着陸する。

しかし、運航を支えるものがなければ、ここに到着することはできない。航空機が目的地へ飛行するために欠かせないのが、燃料補給だ。横田基地の燃料給油センターでは、横田基地に所属するもしくは経由する5,300機のさまざまな航空機への給油を行っている。

第374装備即応中隊燃料管理小隊は、日本人従業員と軍人で構成する74人の従業員と38台の車両で、毎年およそ1,800万ガロン(約6,814万リッター)の燃料の保管、点検、補給業務を行っている。

第374装備即応中隊燃料管理小隊下士官責任者パトリック・ボイル技能軍曹は、「我々は、太平洋空軍傘下の基地で最も忙しい燃料拠点だ」と述べ、「もし我々が業務を止めたら、航空機は離陸できず、運用はほぼ停止した状態になるだろう」と話した。

燃料管理小隊は、POL(ピー・オー・エル)とも呼ばれ、世界中のあらゆる場所から飛来する航空機に燃料の補給を行う。横田基地所属機から他の米軍基地や他国の機体まで、ここに着陸し滞在する機体もあれば、燃料を補給してすぐに次の目的地へと離陸する機体もある。

第36空輸中隊は1月8日、「降下訓練始め」に参加し、多国軍の150人以上の空挺隊員の降下を支援した。その際、航空機がその共同ミッションに臨むためには、燃料管理チームの活躍は不可欠だった。

ボイル技能軍曹は、「準備で行うことは、飛行スケジュールを確認し、到着する飛行機を確認することだ。航空機が到着すれば、給油が必要な機体に空兵を送る」と述べ、「また燃料を検査するラボと連携し、燃料が問題なく使用できることを確認している」と説明した。

燃料管理ラボは、航空機が安全に運航できるように燃料の検査を行っている。そこには、燃料の中にどのくらいの埃やゴミといったものが含有しているかなどを調べる、さまざまな検査機器が備わっている。

第374装備即応中隊燃料管理飛行燃料ラボの技師マイケル・サンダー上級空兵は、「我々の小隊では、すべての燃料と燃料給油機を管理している」と話し、「燃料を検査し、指定の基準を満たしていることを確認する。万が一何か問題があれば、その燃料が使用されないように徹底管理する」と説明した。

燃料管理チームは、横田基地のさまざまな任務を支え、日本とインド太平洋地域を防衛に資する日々の運用において重要な役割を担っている。任務の達成に、燃料はなくてはならないものだ。

